

議事録

会議名 第3回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会			
日時	平成 29 年 11 月 16 日 (木) 17:00～18:50	場所	矢板市役所 3 階 第1委員会室
出席者	矢板市 : 三堂地総務課長、谷中、船山、兼崎 策定委員会 : 陣内雄次、中村久信、佐貫薫、佐藤勤、福田博光、渡邊清二、宮崎博、佐藤賢一、海瀬元之 大島政一、中嶋加代子、笹沼卓夫、三好良重 BHC : 松田、粕谷		
議題	シンポジウムの結果報告について 第一次評価について 施設素案について その他	資料	シンポジウム実施報告 資料 1 第 3 回協議資料 資料 2 公共施設の再編事例 別紙 1・2
議事次第・資料		協議内容	
1. 委員長あいさつ	一次評価の結果報告ということで、事前に目を通してはいるとは思いますが、厳しい結果である。忌憚のない意見を出していただき、施設の再編について検討して行ってほしい。		
2. 事務局より報告	<p>■シンポジウムについて</p> <p>シンポジウムに参加、協力いただいた委員の皆様様に御礼申し上げます。多くの方に参加いただき、市民の関心も高かった。後ほど改めて報告する。</p> <p>■西小学校の統合について</p> <p>11月14日の市議会全員協議会で西小学校の統合について報告された。</p> <p>西小学校については、H28.12月に地元区長から教育委員会に、小学校の今後の行く末について検討してほしいとの要望があり、地元住民にアンケートを実施。その後、西小学区の保護者、地元区民を対象に3回(8/30、10/24、0/30)の検討会を実施し、それら結果を踏まえ、臨時の教育委員会を開催、「西小学校は H31.3 月末をもって矢板小学校に統合」と決定した。</p> <p>公共施設再配置計画は公共施設における最上位の計画ではあるが、統合という結果を念頭に置いて、進めて行ってほしい。</p>		
3. 議事 (1)シンポジウムの結果報告	<p>■シンポジウムについて</p> <p>9月23日に実施した「次世代のために公共施設のあり方を考える」シンポジウムは128名の市民に参加いただき、関心の高さが伺えた。</p> <p>内容は「矢板市の公共施設の現状と課題」と、基調講演として陣内教授より「人口減少社会の中での公共施設」。また、「次世代のために公共施設のあり方を考える」というテーマでパネルディスカッションを行った。</p> <p>参加者へのアンケートでは「人口・財政規模に見合った適正配置」が最も公共施設に望まれていることであり、廃止や統合に際して重視するのはコスト、老朽化度との回答が多かった。また、30年で実施するのではなく、もっとスピードをもって対応してほしいとの意見が多い一方、施設の性格もよく考え、慎重に計画を進めてほしいという意見もあった。</p> <p>委員長:アンケートの自由回答についてはよく検証する必要もあるかと思う。</p>		

会議名

第3回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会

3. 議事
(2)第1次評価について

■今後の流れについて

今回、各課からのヒアリング結果等を基に施設の1次評価が出した。この1次評価だけで施設の方向性を決めることは難しいため、今後さらに追加情報の調査を実施したいと考えており、それらを取りまとめ最終的な方向性を示したいと考えている。

日程の関係で資料の流れと変わるが、1月に第4回の策定委員会を開催し、最終的な施設の方向性について検討いただき、施設素案を策定し、パブリックコメントを実施後、第5回目の策定委員会で再配置計画の修正・確定をしたいと考える。

■一次評価について

施設ごとの1次評価がまとまったため、報告する。

今回、1次評価にあたり、ソフト面からの評価項目とハード面からの評価項目を基に点数付けを行い方針を決定した。ソフト面については、①法定事業、自主事業、②利用者が市民中心か、③利用率、④施設利用者一人当たりのキャッシュフロー、⑤地区の人口見通しの5項目を数値化し、利用率を最も重視した、ハード面としては、①施設の老朽化度、②耐震性能、③㎡当たりの維持管理費、④バリアフリー対応、⑤防災対応の5項目を数値化し、老朽化度を最も重視した評価を行い、結果は以下のとおりとなった。

A 維持	17 施設	24,163 ㎡	18.1%
B 検討(貸付・転用)	19 施設	28,194 ㎡	21.1%
C 検討(更新・機能移転等)	49 施設	46,700 ㎡	34.9%
D 廃止(譲渡・廃止等)	30 施設	34,574 ㎡	25.9%

更新費用として、計画策定当初各課へのヒアリングを実施したものと1次評価の2つを示させていただきます、

- パターン1:初期評価(計画策定当初の各課ヒアリング)で「廃止評価」施設を廃止した場合・・・30年間で57億円の削減効果
 - パターン2:一次評価「D評価」施設を廃止した場合・・・30年間で125億円の削減効果
 - パターン3:初期評価「廃止」と一次評価「D評価」を廃止した場合・・・30年間で140億円の削減効果
- という結果となった。

■縮減目標について

公共施設等総合管理計画で行った財政シミュレーションでは30年間で535億円の財源不足が生じていることから、40%の面積縮減を目標としている。ただし、40%縮減はかなり厳しい目標の為、面積削減だけでなく施設のランニングコストを抑えることで、不足額の解消を目指すことも併せて考える必要がある。

3. 議事
(3)施設素案について

■D 評価に対する各課方針

事務局: 今回の一次評価の結果を受け、D 評価の施設について各課に現状での方針の聞き取りを行い、別紙1(D 評価・各課方針)に示させてもらった。暫定的なものではあるが参考にされたい。

委員: 聞き取りの結果が廃止となっているが、施設だけでなく事業自体も廃止するのか。

事務局: 方針が廃止だけであるとソフト面とハード面の方針が不明瞭となるため、より具体的な方針を出すため、追加で各課に聞き取りを実施している。

委員: 体育館等についても廃止方針が上がっているが、避難所等の防災の機能も考慮する必要がある。

委員: 学校についても廃止方針が出ているが、地域とのつながりが強く、コミュニティの核として役割もあるため、よく検討する必要がある。

会議名

第3回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会

委員: 公民館も廃止方針が出ているが、同様に地域の核となる施設でありよく検討してもらいたい。

副委員長: トレーニングセンターについても廃止方針が出ているが、スポーツ振興のため交付金により整備を行っており、整合性等よく検討すべきである。また、泉保育所については、これまで民営化を進めてきた経緯があり、それらを考慮し検討を進めるべきである。

■方向性と追加情報の調査

BHC: 今回、1次評価を示したが、方針が維持、検討(貸付・転用)、検討(更新・機能移等)、廃止(譲渡・廃止等)に区分けされているだけで、施設の具体的方針が不明確なため、現在、各課に新たに6つの追加項目のヒアリングを実施しており、それに基づき施設の具体的な方針を示せると考えている。

検討にあたっては、1次評価の結果の他に、事業運営費、維持管理費、借地の有無、施設の避難所指定、市の他施策・既存計画との関連性を考慮した上で、検討を進めてもらっている。

ヒアリング項目として、次の項目を聞き取り具体的な方向性を示す。

- ・社会ニーズとの適合性
- ・サービスの代替性
- ・運営見直しに関する方向性
- ・その他(特殊事情)
- ・方向性
- ・再配置の考え方

方向性の選択肢として、次の項目から選択してもらおう形とし、ソフトとハードの対応方針も見えてくると考えている。

- ①統合(移転): 同一機能を持つ他施設への移転
- ②統合(集約): 同一機能を持つ他施設を受入
- ③統合(新設): 同一機能同士で新施設へ移転
- ④複合(移転): 異なる機能を持つ他施設への移転
- ⑤複合(集約): 異なる機能を持つ他施設を受入
- ⑥複合(新設): 異なる機能同士で新施設へ移転
- ⑦転用: 施設の設置目的を変更(用途変更)
- ⑧譲渡: 所有権を民間・地域等へ譲渡
- ⑨貸付: 民間等へ貸付
- ⑩解体: 廃止して取り壊し
- ⑪維持: 継続運営

委員: ある程度の矢板市のビジョンが見えれば議論しやすいと思う。例えば学童保育は6年制もあれば低学年のみの所もあるが、市としては子育て環境日本一を目指しているはず。

事務局: 事務局にて総合計画等各種政策の概略を作成する。

委員: 判断基準としてあらゆる角度からの項目があるので、総合的に判断することが出来ると思う。維持したい気持ちはみんな持っていると思うがどこかで英断して決めていかねばならない。

委員長: 次回の委員会での議論が山場と思われる。2時間では時間が足りないことも考えられるので、あらかじめ送付し、意見集約シート等で委員の意見をまとめてはどうか。

事務局: 次回の委員会では、所管課の方向性をとりまとめたものを事前に委員へ意見集約シートとして配布し、それらの意見を集約した資料で議論を進めていきたい。以上

